

令和5年度第1回 岐阜県青少年育成審議会 議事録

日 時	令和6年2月16日(金) 10:00~11:45
場 所	岐阜県庁 議会棟 第一会議室
出席者	<p><委員> 14名 (欠席委員6名) 石黒委員、岩垣委員、春日委員、坂井委員、信条委員、本多委員、松中委員、 村瀬委員、若井委員、大橋委員、高井委員、磯谷委員、杉山委員、栢之間委員</p> <p><県> 7名 高橋環境生活部次長、奥富私学振興・青少年課管理調整監 宮部少年課長、酒井学校安全課長 他</p>

会議の概要

1 開 会

- ・会議成立の報告
- ・高橋環境生活部次長あいさつ
- ・新任委員の紹介

2 審議会の運営について

- ・会長の選任
- ・議事録署名者の指名
- ・会長職務代理者の指名
- ・部会委員及び部会長の指名

3 報告事項

- ・有害興行の緊急指定について
- ・有害図書類等の指定(包括指定の例示)について
- ・岐阜県青少年健全育成条例の一部改正について
- ・岐阜県青少年育成事業の主な取組みについて
- ・こども基本法・こども大綱の制定に伴う対応について
- ・県政モニターアンケート調査の結果について

4 意見交換

5 閉 会

議事の概要	
発言者	発言
	<p><会長の選任> 委員改選後初めての審議会の開催にあたり、会長の互選を行い、坂井委員を会長に選出した。</p> <p><議事録署名者の指名> 会長から本多委員と大橋委員を議事録署名者に指名した。</p> <p><会長職務代理者、部会委員及び部会長の指名> 会長から石黒委員を会長職務代理者に指名した。 部会委員について、出席委員に部会委員（案）を示して指名した。第1部会の部会長に石黒委員を、第2部会の部会長に磯谷委員を、第3部会の部会長に掛布委員を指名した。</p> <p><有害興行の緊急指定について（報告）> 有害興行の緊急指定について、事務局から資料に基づき報告した。</p> <p><有害図書類等の指定（包括指定の例示）について（報告）> 有害図書類等の指定（包括指定の例示）について、事務局から資料に基づき報告した。</p> <p><岐阜県青少年健全育成条例の一部改正について（報告）> 岐阜県青少年健全育成条例の一部改正について、事務局から資料に基づき報告した。</p> <p><岐阜県青少年育成事業の主な取組みについて（報告）> 岐阜県青少年育成事業の主な取組みについて、事務局から資料に基づき説明した。</p>
石黒委員	<p>有害図書の区分陳列率が数値目標にあったが、最近コンビニなどの有害図書は減ってきており少し安心している。一方で、子どもたちがネットの中で、そういったものに触れる機会が非常に多いので、我々大人は、ネット社会の中で子どもたちがそういったものに触れないようにするにはどうしたら良いかを考えていかなければいけないと感じている。</p>
坂井会長	<p>紙メディアを中心に考えていたのが、今はデジタル化しており、携帯電話を持っていることを前提に色々なシステムが動いている。数値目標は、高校1年生の家庭でのルールづくりであるが、今はもっと低年齢からスマホなどを持っていると思う。</p>

岩垣委員	<p>孫が携帯電話を持っており、まだ自分でインターネットで調べることはできないが、親はフィルタリングをかけている。ゲームの中で知らない友達と繋がることもあるということなので、何かしらの教育を始めなくてはいけないと感じている。携帯や iPad を持たせないということは無理な時代なので、低年齢の内からインターネットの危険性を教えなくてはいけない。</p>
若井委員	<p>県議会としてもヤングケアラーを含めたケアラー支援条例の設置を進めているところだが、施策説明の「少年サポートセンター等推進事業」の中で、ヤングテレホンコーナーの紹介があった。LINE など SNS で相談がしやすい環境がある中で、直接子ども達がここに電話をしているのか。</p>
宮部少年課長	<p>少年サポートセンターは、本部に 1 か所、主要な警察署に 5 か所の計 6 か所ある。ヤングテレホンコーナーは、少年からの相談は少なく、保護者からの相談が圧倒的に多い状況である。</p> <p><こども基本法・こども大綱の制定に伴う対応について（報告）> こども基本法・こども大綱の制定に伴う対応について、事務局から資料に基づき説明した。</p> <p><県政モニターアンケート調査の結果について（報告）> 県政モニターアンケート調査の結果について、事務局から資料に基づき説明した。</p> <p><意見交換></p>
村瀬委員	<p>家庭でのルールづくりに関する数値目標については、学校の子どもたちにアンケートをした結果だと思う。家庭でのルールづくりに対する保護者と子どもの認識がずれているというのはこの分野では定説で、保護者はルールづくりをしているつもりでも、子どもは、注意をされているだけで、ルールづくりをしたと認識していない場合がある。</p> <p>青少年のネット利用に関わっている団体では、フィルタリングの重要性と同時に家庭でのルールづくりを呼び掛けているが、第一義的に、保護者がどれだけ意識と知識をもつかが重要。</p>
坂井会長	<p>フィルタリングに限らず、保護者と子どもの意識の乖離はあると思う。</p>
村瀬委員	<p>条例改正の説明があったが、日本の法律では成年擬制がなくなったが、外国で結婚した子どもが日本に来た場合はどうなるのか疑問に思った。この場ではなくて良いので、また教えて欲しい。</p>

高井委員	<p>フィルタリングの話が出たが、フィルタリングで見られないサイトやアプリは誰がどこで決めているのか。</p>
村瀬委員	<p>フィルタリングは、各携帯電話事業者がサービスとして行っているが、その基準は、民間の非営利団体が判断しており、業者が恣意的に行ってはいない。小学生、中学生、高校生向けに、見られるサイトが指定されている。</p>
事務局	<p>法律において、インターネットの有害情報の判断は、行政側が行うのではなく民間側で行うということになっている。</p>
松中委員	<p>小学1年生から iPad が貸与されており、中学校では iPad がないと授業ができないぐらい授業の大きな転換が図られている。デジタル機器の適切な活用は、必ず全ての学校で指導するが、地域や家庭の中でも同様に指導できる仕組みを考えなくてはいけないし、行政でも継続して行って欲しい。</p> <p>また、学校の喫緊の課題は、いじめや不登校であり、先程の施策説明にあった支援を継続して欲しい。</p> <p>「全ての青少年の健やかな成長と自立への支援」として、「道徳教育徹底支援事業」が施策の中にあっただが、学校も道徳教育に力を入れており、支援の継続をお願いしたい。</p>
杉山委員	<p>GIGA スクールということで、IT 機器の販売や電子教科書の開発など学校現場の IT 化を推進する立場にある。子どもたちがインターネットや SNS で被害にあうことも理解しているが、世界の潮流をみると、IT に強い子どもにしていくことは重要だと思っている。フィルタリング等で大人が子ども達を縛るという考え方もあるが、一番大事なのは、子どもたち一人ひとりが、自分で自律して IT を使って将来を築いていくということ。子どもの情報モラルの育成や、子どもが自分で自分をコントロールする力をつけることが一番大事で、それをどう教育、指導していくかが重要だと思う。</p>
磯谷委員	<p>新しい機器が出てくると、子どもに対する悪影響はその都度懸念してきたと思うが、子どもたちの持っている能力や柔軟性は高く評価するべきだと思う。私の孫も、説明書が無くても色々な機器を使用できる。制約することにも意味はあるが、子どもたちの能力を信じてあげるということを、大人は常に心情的に持っているべきで、大らかな意味合いの中で、子どもの成長を見守っていききたいと思う。</p>
大橋委員	<p>新聞には毎日のように子どもが巻き込まれた事件が載っており、取材していく中には、闇バイトやネット依存などの問題もあるが、子どもたちは、殆どの情報は SNS から取っており、遠ざけるのではなく、その使い方をしっかり理解してもらうことが一番大事だと思う。</p>

坂井会長	<p>今の子ども達の問題は、目の前にあるというのが事実であり、それを一方的に変えていくことは難しいし、子ども達がそういう環境の中で生きていることを我々も認識していく必要があると感じた。</p>
本多委員	<p>数値目標の中で、「非行少年の検挙・補導人員」が、千人当たりで1.8人だったのが、令和4年では1.5人になっているが、目標値はそのままではなく減らしてもらいたい。</p> <p>罪を犯した人の更生のために我々は仕事をしているが、少年犯罪では、少年を指導しても、保護者を指導しないと中々更生しないと感じている。</p>
信条委員	<p>私立学校として、公立より一足早く ICT 機器を整えたが、アクセスを制限したら何もできなくて、色々と検討しながらアクセスできる所を増やし、多様な学びの場を作ってあげるように取組んできた。子どもの能力を生かしながら、認めながら、学びの場を広げてあげることが大切だと思う。</p>
春日委員	<p>幼児期の子どもの保護者は、20代前半から40代後半までと年齢層も幅広く、色々な考え方の保護者がいる。SNSの使い方や考え方も年齢層によって違う。皆さん子どもに勝手に触らせないようにしているが、家庭環境の中でネットが主流になっている家庭もある。保護者がゲームする家庭では、子どもの遊びがゲームになっていたり、ゲームがしたくて登園を渋る子がいたりもする。インターネットは良い風に使えば良いが、闇バイトなどの犯罪に至ることもあり、世界に繋がっている SNS に関して如何に教育していくかは、幼児期から取り組まなければいけないと感じている。</p> <p>また、数値目標に「朝食又は夕食を家族と一緒に食べる回数」があるが、共働きが増えて、預かり保育も年々増えており、保護者と接する時間がかかなり短い子もいる。そうした中で、帰宅後の時間が DVD やインスタグラムを見たりする時間になっているという話も聞く。親と過ごす時間の短さ、その時間の中での関わり方も、今の時代はすごく変わってきていると感じている。</p>
栢之間委員	<p>フィルタリングの重要性を認識している子があまりいないのを実感している。周りの大学生でも、自分がネット犯罪に巻き込まれると思ってネットにアクセスしている訳ではないので、変なサイトを開いてしまったという話がよく出る。アルバイトで塾の講師をしているが、親がかけてくれたフィルタリングを、どう掻い潜るかを考えている子や、22時以降は使えない設定を自分で変えて、親に隠れて使っている子もいる。子どもの柔軟性や能力を認め、教育によって自己統制を図るというお話があったが、子どもを信頼し過ぎてしまうと危うさがあるのではないかと思う。</p>
坂井会長	<p>本日は SNS などネット環境の話題、フィルタリングに関する話題が多かったように思う。心配するご意見がある一方、ネットや ICT を当たり前として成長する子どもたちの良さにも目を向けようというご意見もあった。また、ターゲットである青少年世代の</p>

	ご意見もお聞きでき、貴重な時間であったと思う。
--	-------------------------